

March 17, 2020

【前日の為替概況】ドル円、NY 株安で 105.15 円まで下落後 106.47 円付近へ反発

16日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに急反落。終値は105.83円と前営業日NY終値(108.00円)と比べて2円17銭程度のドル安水準。米連邦準備理事会(FRB)は15日、臨時の米連邦公開市場委員会(FOMC)を開き、政策金利を1%引き下げゼロ金利にすることを決定。日銀も金融政策決定会合で約3年半ぶりに追加金融緩和を決めたものの、世界景気の急激な冷え込みを警戒した動きは止まらず、アジア・欧州の株式市場は全面安となった。リスク回避目的の円買い・ドル売りが先行し、105.15円まで値を下げた。オセアニア通貨や資源国通貨に対してドル買いが広がると、円に対してもドル高が進んだため一時106.47円付近まで下げ渋る場面があった。ダウ平均が一時3069ドル程度下落し、過去最大の下げ幅を記録すると上値が重い展開。G7首脳は緊急テレビ会談後に「金融政策・財政を総動員する」との声明を発表したが、相場の反応は限定的だった。

ユーロドルは5日ぶりに反発。終値は1.1183ドルと前営業日NY終値(1.1107ドル)と比べて0.0076ドル程度のユーロ高水準。手元にドル資金を置いておきたい金融機関や企業のドル需要が強まっているため、ドル買いが先行し一時1.1094ドル付近まで下げた。

トランプ米大統領が「新型コロナとの闘いは8月まで続く可能性。米景気はおそらくリセッションに向かっている」と発言すると米国株の下げ幅が拡大した。

ユーロ円は反落。終値は118.47円と前営業日NY終値(119.95円)と比べて1円48銭程度のユーロ安水準。世界的な株価の下落に歯止めがかからない中、安全資産とされる円が買われたため、117.15円と日通し安値を付けた。

メキシコペソは軟調。世界的な株価の下落を背景にリスク・オフの動きが強まり、原油価格の急落を受けて産油国通貨とされるメキシコの通貨ペソに売りが出た。ドルペソは一時23.0782ペソと過去最高値(ペソ最安値)を付けたほか、ペソ円は4.57円まで値を下げた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、世界同時株安を受けたレパトリによる資金フローに要警戒か

本日の東京市場のドル円は、世界的なリセッション(景気後退)懸念による世界同時株安を受けたレパトリエーション(国外滞留資金の本国環流)に要警戒となる。

新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)を受けて、世界同時リセッション(景気後退)、世界同時株安の様相を呈し始めていることで、レパトリ(国外滞留資金の本国環流)が活発化している。

本邦機関投資家などは、3月の期末決算に向けたレパトリ(海外資産売り・円買い)を行っており、米系ヘッジファンド勢などは、足元のNY株下落の損失を相殺するため、期末の投資家からの解約に備えてドルの回収(日本株など海外資産売却・ドル買い)を行っている。さらに、金融危機の様相を呈し始めていることで、ドル資金への需要が高まっており、金融市場や外国為替市場でのドル需要が高まりつつある。

トランプ米大統領は、先週、新型コロナウイルスへの対応で国家非常事態を宣言し、昨日は、米国経済がリセッションに陥る可能性を示唆した。NY株式市場が今回のように「弱気相場」入りした局面では、米国経済は過去80%の確率でリセッション入りしている。全米経済研究所(NBER)の景気循環判定委員会は、リセッションの判定は、2四半期連続のマイナス成長だけでなく、1四半期、数カ月だけのマイナス成長でも大きな落ち込みであればリセッションと判断すると示唆している。

問題は、リーマンショック前のFF金利は5.25%、FRBのバランスシートは9000億ドル程度で、100年に一度のリセッション(景気後退)に対しては、伝統的金融政策としてのゼロ金利までの利下げ、非伝統的金融政策としての4.5兆ドルまでの量的金融緩和が断行できた。しかし、今回は、現時点でのFF金利はゼロ、バランスシートは4.2兆ドルであり、金融政策面からのリセッション(景気後退)に対する弾薬は枯渇している。米連邦準備理事会(FRB)によるゼロ金利までの利下げや7000億ドルの量的緩和にも関わらず、ダウ平均が過去最大の下げ幅(▲3069ドル)を記録した背景には、市場の恐怖が現れている。

日経平均株価も、日銀金融政策決定会合での上場投資信託(ETF)の倍増(6兆円⇒12兆円)にも関わらず続落しており、金融緩和の限界に対する懸念が高まっている。日本経済も消費増税、新型コロナウイルス「COVID-19」、そして東京オリンピック中止・延期懸念でリセッション入りの可能性が警戒されており、本日のバウハ IOC 会長による緊急電話会議に要警戒となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 13:30 ◇ 1 月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 1 月設備稼働率

<海外>

- 09:30 ◎ 10-12 月期豪住宅価格指数（予想：前期比 3.9% / 前年比 3.0%）
- 09:30 ◎ 3 月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨
- 18:30 ◎ 2 月英雇用統計（失業率 / 失業保険申請件数推移）
- 18:30 ◎ 1-3 月英失業率（ILO 方式、予想：3.8%）
- 19:00 ◎ 3 月独 ZEW 景況感指数（予想：▲29.0）
- 19:00 ◎ 3 月ユーロ圏 ZEW 景況感指数
- 19:00 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
- 21:30 ◇ 1 月対カナダ証券投資
- 21:30 ◇ 1 月カナダ製造業出荷（予想：前月比▲0.5%）
- 21:30 ☆ 2 月米小売売上高（予想：前月比 0.2% / 自動車を除く前月比 0.2%）
- 22:00 ◇ 2 月ロシア鉱工業生産（予想：前年比 1.0%）
- 22:15 ◎ 2 月米鉱工業生産指数（予想：前月比 0.4%）
◇ 設備稼働率（予想：77.0%）
- 23:00 ◇ 1 月米企業在庫（予想：前月比▲0.1%）
- 23:00 ◎ 3 月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：74）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

16日 06:28 トランプ米大統領

「FRBの緊急利下げには非常に満足している」
 「新型コロナとの闘いは7、8月まで続く可能性もある」
 「米国はウィルスの渦中でリセッションに向かうかもしれない」
 「ウィルスがなくなれば米国経済はとてつもなく急騰する」

16日 06:41 ペンス米副大統領

「新型ウイルスに関する緊急法案の議会通過を要請する」

16日 07:11 オア NZ 準備銀行(RBNZ)総裁

「刺激策として量的緩和が最も効果的手段である可能性」
 「現時点でマイナス金利の導入は予想していない」
 「新型肺炎によるNZ経済への悪影響は著しく続くだろう」

16日 07:39 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「新型肺炎は米国や世界に深刻な影響を与えている」
 「新型肺炎によりインフレは抑制される見通し」
 「債券購入は緩和的状況を一段と助長する」
 「今週予定されていたFOMCは開かない」
 「マイナス金利が米国にとって適切な政策とはみていない」

16日 09:20 安倍首相

「本日の日銀政策決定会合では西村経済再生相が出席」
 「1月までは消費増税の影響は薄らいでいた」
 「足もとの経済は厳しい状況になっている」
 「何よりも治療薬開発が重要」
 「G7の保健、財務相間で定期的なやり取りをする」
 「五輪を完全な形で実現することでG7の支持を得た」

16日 10:06 豪準備銀行(RBA)

「債券を購入する用意がある」
 「追加の政策措置について19日に発表する予定」

16日 14:12 日銀声明

「CPの残高を2.2兆から3.2兆、社債の残高を3.2兆円から4.2兆円にそれぞれ引き上げ」
 「ETFの保有残高を年間6兆円から12兆円、J-REITを年間900億円から1800億円に引き上げ」
 「政策金利の据え置きに原田委員、片岡委員が反対」
 「景気はこのところ弱い動き」

16日 16:10 黒田東彦日銀総裁

「必要あれば追加的な金融措置、躊躇なく講じる」
 「新型ウイルスの影響は時間差で来る、今後も影響続く」

「(会合を前倒した理由)年度末控え必要な措置を早急に検討する必要、国民心理の安定確保にも重要」
 「前倒し会合は主要国協調の枠組みの一環」
 「国債買い入れ、必要に応じていくらかでも増やすことができる」
 「マイナス金利の深ぼりは可能だが、企業金融支援・資産購入・流動性供給が日本経済に最も重要で効果的」
 「金融機関が傷んだリーマンショック時とは違う」
 「新型コロナの感染が終息すれば、経済の回復は急速」
 「中国経済、第2四半期はフル回復してもおかしくない」
 「消費低迷もあるが、原油価格の大幅安が物価に下押し圧力の可能性」
 「決定会合後の株安、悲観する必要はない」
 「ETF購入、マーケット見て必要な限り12兆円ペースでやっていく」
 「円高、経済・物価・金融市場に影響し対応しなければならなくなる」

17日 00:16 フォンデアライエン欧州委員長

「EU内の渡航原則禁止を提案」
 「(渡航禁止の)対象外は医療スタッフなど」

17日 00:55 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「米国は750億ドル分の原油を購入する」
 「この調整は長期投資家にとっては素晴らしい機会と確信」

17日 02:21 G7 首脳

「世界の貿易、投資を支援」
 「必要な政策を何でもやることで一致」
 「金融、財政措置を新型コロナウイルス対策に活用」

17日 02:44 トルドー加首相

「国境を閉鎖する」

17日 03:59 米ホワイトハウス

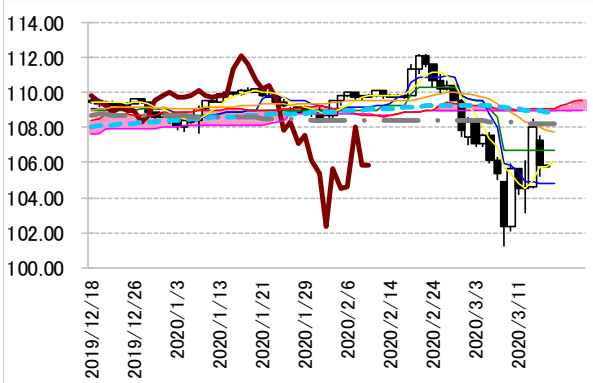
「日本時間4時15分から新型コロナウイルス関連で会見を行う」

17日 04:19 マクロン仏大統領

「我々は衛生戦争にいる」
 「すべての企業は家から仕事をできるようにする手順を取らなくてはならない。家族行事なども明日から禁止」
 「国民の移動を制限するように段階を引き上げる」
 「明日から15日間に渡り国民の移動を非常に厳しく制限」
 「必要不可欠の場合以外は国民は家にとどまるように命令」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。毛抜き天井（112.23円・112.19円）から101.19円まで下落後、61.8%戻して108.50円まで反発したものの雲に届かず、孕み線により反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

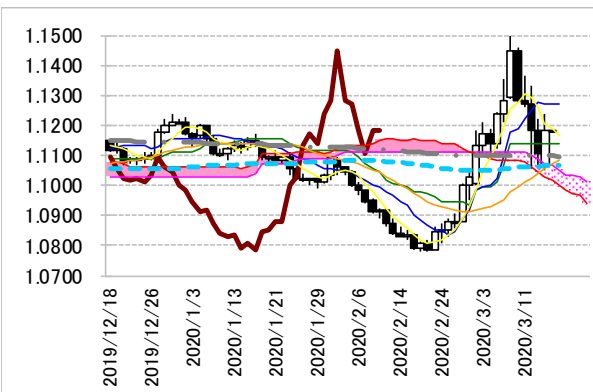
レジスタンス2 108.97(日足一目均衡表・雲の下限)

レジスタンス1 106.71(日足一目均衡表・基準線)

前日終値 105.83

サポート1 104.85(日足一目均衡表・転換線)

サポート2 103.09(3/12 安値)



<ユーロドル＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

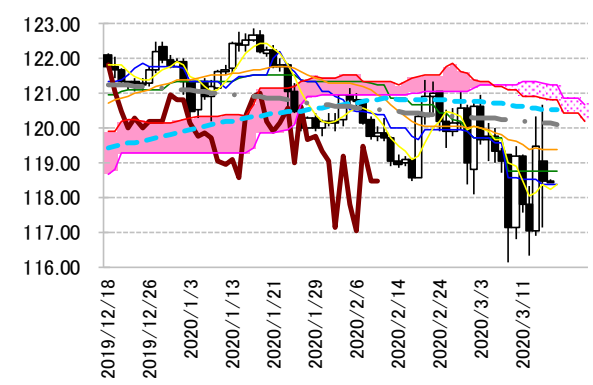
陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。高値圏から反落していたものの雲で下げ渋り、切込み線で反発しており、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 1.1272(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 1.1183

サポート1 1.1137(日足一目均衡表・基準線)



<ユーロ円＝雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

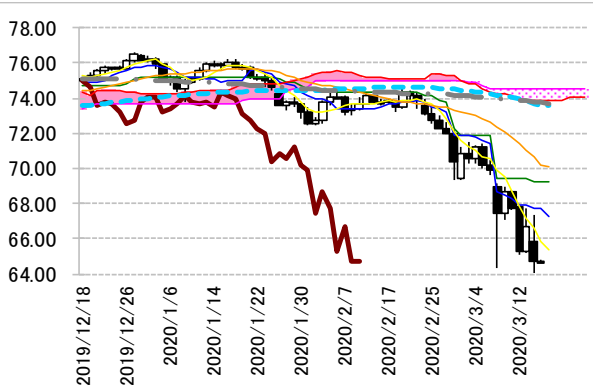
陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。13日の大陽線に対して上ヒゲの長い孕み線により反落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 120.81(日足一目均衡表・雲の下限)

前日終値 118.47

サポート1 117.15(3/16 安値)



<豪ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 67.24(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 64.77

サポート1 64.06(3/16 安値)

